

令和6年度 全国硬筆コンクール 課題参考手本

大平恵理書

小五	学年	最上川 暑き日を海に入れたり むらすずめ 夕立や草葉をつかむ	氏名
----	----	---	----

第13回全国書写書道総合大会 主催 一般社団法人日本書字文化協会 共催 公益財団法人文字・活字文化推進機構

課題解説

前の句は江戸時代中期の俳人・与謝蕪村。「夕立が来て、雀の群れが雨宿りのために草の葉をつかんでかくれようとしている」。

後の句は松尾芭蕉の『おくの細道』のついでに「暑い日が、最上川によって海に流し込まれ終わろうとしている」。現代の山形県酒田市で詠んだ句です。

(課題文は「書文協ことば会議」選定・創作)